

元気よみこたくさん計画

北九州高専 3-1 富高楽斗, 梶谷太一 4-1 手嶋慧太

目標：出生率を上げる

出生率をあげることで人口増加が望める。

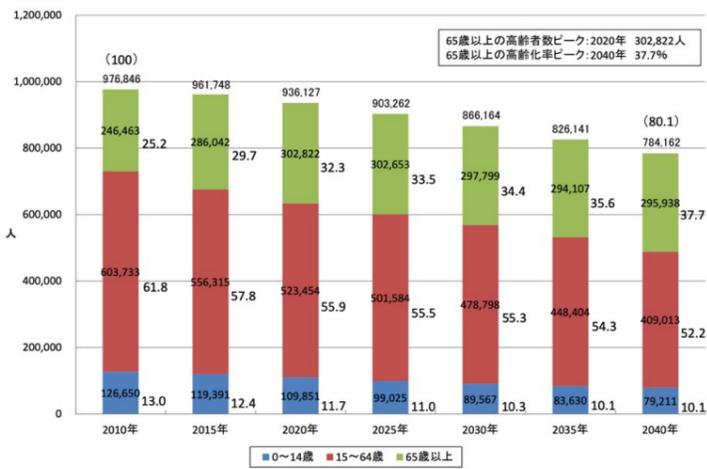
第一子を産む年齢が上がっていったので次の子供が産めなくなっている可能性が高い

→全国平均よりは低いと言うほどではない(全国平均：30.4, 福岡平均：29.6)

課題：北九州市の人口が少ない

- ・現在の北九州市の出生率は1.61
- ・出生率は2.07ないと人口は維持できない
- ・そのため北九州市は人口が減っていくだろう

北九州市の将来推計人口(国立社会保障・人口問題研究所より) 3



着眼点

出生率は1位だが既婚率は16位
(政令指定都市19カ所)

異性との巡り合いがないという理由で
独身の人が50%近くいる

【独身でいる主な理由】「異性とのめぐり合い」「経済的理由」を理由にする人が多い

時間やお金を自由に使いたい	55.2%
適当な相手にまだめぐり合わない	54.9%
趣味や娯楽を楽しみたい	52.4%
異性と出会う場や、交際する機会がない	49.2%
独身の自由や気楽さを失いたくない	48.2%
収入や住居など結婚生活のための経済的基盤のめどがたたないから	38.6%
なんとなく独身でいる	38.4%
結婚資金(挙式や新生活の準備のための費用)が足りないから	38.3%
異性とうまく付き合えない	33.9%
仕事(または学業)にうちこみたい	31.1%

着眼点

結婚する年齢を低くするために
早くから出会いの機会を増やす必要がある

Goal

結婚する年齢を低くするために
早くから出会いの機会を増やす必要がある

手段：子供の積極的なイベントの参加を促す

- ・小さいうちから他学校、他年代などの出会いの機会を増やす
- ・対象が小・中学生のため、
高校・大学・成人式などで再び出会うことになり、
付き合いに発展しやすいのでは
- ・また、子供の頃の体験が多いほど結婚率が高かったり、
産む子供の数が多かったりするという結果がある

調査研究結果概要
【成人調査】
クロス集計の結果、子どもの頃の体験が少ない群より多い群の方が、結婚している割合が高い。さらに、子どもが2人以上いると回答した割合が高い。

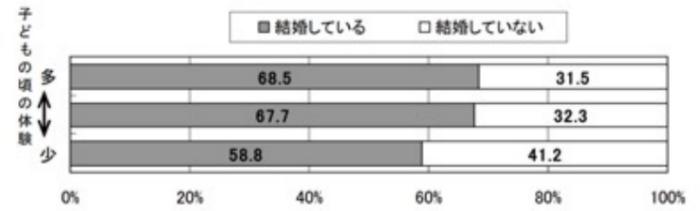


図 3-5-4. 子どもの頃の体験の多寡と「結婚の有無」との関係

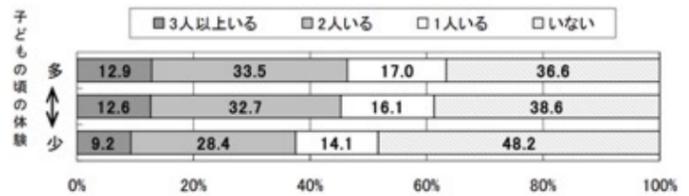


図 3-5-5. 子どもの頃の体験の多寡と「子どもの数」との関係

解決方法：子供の参加するイベントの開催 情報の発信

- ・小さいうちから他学校、他年代などの出会いの機会を増やす
- ・対象が小・中学生のため、
高校・大学・成人式などで再び出会うことになり、
付き合いに発展しやすいのでは
- ・また、子供の頃の体験が多いほど結婚率が高かったり、
産む子供の数が多かったりするという結果がある

